

瞳を輝かせて サワツデー

※「サワツデー」はタイ語で「こんにちは」の意味

タイ国のタマサート大学で日本語を専攻する学生16人が10月14〜23の10日間、本市を訪れ、日本の生活文化を体験しました。交流事業は今年で9回目。一行は西根地区ホストファミリーの会員などの家にホームステイをしながら、岩手山焼走り国際交流村で開催された「日・タイ文化交流会」で市民と交流を深めたほか、茶道や華道などの日本文化を体験しました。

●タマサート大学

タイ国の首都バンコクにあり、国内で2番目に古い(1933年設立)大学。現在は法学部、商・会計学部、政治学部、教養学部、経済学部、マスコミ学部のほか、市外のキャンパスには理工学部、工学部、医学部、看護学部、歯学部もある総合大学。19,000人の学生と6,000人の大学院生が学んでいる。タイでは、チュラロン大学と並ぶ有名大学で、日本でいうと、東京大学、京都大学に相当する大学に例えられる。



タイ国のタマサート大学から本市を訪れた浴衣姿の16人の学生たち。写真前列左からベアさん、モモさん、アイコさん、まきさん、ミムさん、ティーさん、イップさん、バードさん。後列左からプラーさん、フェーンさん、ピームさん、トムさん、モンさん、ミルクさん、マイさん、トウンさん(名前は愛称)

初めての海外 感動の11日間

人材育成事業の一環として、安代地区で平成6年度から実施している中学生の国際交流事業は7月24から8月4までの11日間、ニュージーランド・レビン市などで行われました。参加した安代中・田山中の生徒6人は、ホームステイをしながら現地の中学校に通学して、ニュージーランドの日常生活を体験してきました。

今回は、貴重な体験をして一回り大きくなって帰国した6人に感想を聞きました。

積極的な挑戦が充実の11日間を生んだ

安代中2年 高村慎太郎さん



行く前は実際に英語が通じるか不安でした。ホストファミリーが丁寧に話しかけてくれたので、緊張せずに話せるようになりました。11日間の生活を通して、何事も積極的に挑戦することが大切だと思いました。今度は、もっと英語を覚えてニュージーランドに行き、ホストファミリーに会いたいです。

海外で学んだことを将来に生かしたい

安代中2年 羽沢丸人さん



初めての海外で知らない土地に来て、緊張と不安に悩まされましたが、ホストファミリーの人たちが温かく迎えてくれたことで、日本では体験することができない思い出をつくることができました。言葉の通じないニュージーランドで学んだことが自分を高めていく材料になるように、これから頑張っていきたいです。

I had a good time

田山中3年 工藤菜々子さん



初めてのニュージーランドは、すべてが新鮮で、勉強と驚きの日々の連続でした。ホームステイでは、ホストファミリーが私を家族の一員として迎えてくれたことで、家族のやさしさを肌で感じることができました。この出会いを忘れず、英語をもっと勉強してパワーアップした自分でまた会いに行きたいです。



交流を深めたレビンインターミディエイトスクールの生徒などとスクールの前で記念撮影

自分の価値観を変えさせた貴重な体験

安代中2年 村上美智恵さん



この11日間の研修では、自分の持つ英語力を発揮することができ、自信をつけることができたので、充実した毎日を過ごしました。日本と外国の文化や習慣の違いで戸惑うこともありました。初めて知ったことや行かなければ分からないことを発見でき、自分の中の価値観を変えることができた貴重な体験でした。

ホストファミリーとの出会いを大切に

安代中2年 荒川真澄さん



この11日間は、言葉はもちろん食事や生活も日本とは違う環境の中で、初めは戸惑いもありましたが、ニュージーランドの皆さんが親切にしてくれて、毎日楽しく過ごすことができました。ホストシスターとは、手紙などで連絡を取っているの、これからもずっと交流を続けたいと思います。

この出会いと思い出を無駄にはしない

田山中3年 佐藤未津希さん



今回の海外交流事業では、日本とニュージーランドの文化の違いなど多くのことを学びました。ホストファミリーとの別れはつらかったですが、また会いたいと思うことで、さらに英語の学習を頑張ろうと思いました。この研修で学んだことを無駄にしないように、これからの活動で生かしていきたいと思います。



▲東慈寺保育園を訪問した一行。園児たちと綱引きやダンスで楽しい時間を過ごしました



▲交流会では、さんさ踊りで友好の輪を広げました



▲タイの伝統的な踊りを披露する学生たち



華道や茶道など、日本古来の文化を体験しました



◀たくさんの市民と交流を深めたタイの学生たち